



クリスマスメッセージ 「恵」は「十字架」を「思う」と書く 牧師 立石尚志

クリスマスおめでとうございます！

日本語に訳しづらい言葉に「VULNERABLE・VULNERABILITY」という言葉があります。通常、軍事要塞などの攻撃のされやすさとか、夜一人歩きする時の無防備さというような用途に用いますが、道理をわきまえた大人に対して「make yourself more vulnerable」という場合には、他人に対して「心を開いてもっと弱さを見せなさい」とか「あえて傷つけられなさい」、「利用されることに甘んじなさい」というような意味で使われたりします。

クリスマスとは何なのでしょう。それは神の一人子が、赤子となって世界に来られ、ご自分を「VULNERABLE」にされた日なのです。クリスマス・・・それは神の一人子が「VULNERABLE」になって人に近づき、人の痛みや苦しみを担い、ついに十字架について人の身代わりとなって苦しみ、死ぬために人間とされた日なのです。ある伝道者が「恵」という字は「十字架」を「思う」と書く」と言い、本当にその通りだと思いました。キリストの十字架こそ、「罪の赦し」「希望ある人生」「永遠のいのち」というすばらしい宝がたくさん詰まった真のクリスマス・プレゼントなのです。

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。

ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」1ヨハネ4：9

ゴスペルを歌いたいんです！

ターナー陽子 (宣教協力者/ゴスペルクワイアメンバー)

今日は、私がどのように神様に会い、ゴスペルを通して信仰へと導かれ、神様がどのように一緒に歩んで下さってきたか、お証ししたいと思います。

仏壇・般若経・教会学校 私の両親は、朝起きたらまず神棚に向かって祈り、朝と晩ご飯前には必ず仏壇に向かって般若経を唱える、ある意味信仰に厚い人達でした。私が3歳頃になって、近所の方の勧めで、母が私と姉を近所の教会の日曜学校に送り出しました。同い年の子供達も多い教会でしたが、引っ込み思案でインドア派の私には毎週苦痛でしかありませんでした。家ではご先祖様の魂を敬えとお経を唱えさせられ、教会ではイエス様。そのうち私は、ご先祖様も色々な物に宿る神様も、イエス様も、みんな本物で、正しいことをしないと罰せられてしまうんだ、と考えるようになりました。その後、姉が中学の部活で日曜学校に行けなくなったのを契機に、私も教会に行くのをやめてしまいました。

ブラックゴスペルとの出会い 時は経ち、大学4年の夏休みに偶然見たTV番組で、ブラックゴスペル音楽に初めて出会い、雷で打たれたような衝撃を受けました。当時はインターネットが発達する前の時代でしたが、田舎町のレコード店にゴスペルのコンピレーションCDを奇跡的に2枚見つけることができました。それを繰り返し聴いていく中、どうしてこの音楽を聴くと元気になるのか、なぜあのTVでみたクワイアの人達は、涙を流しながら歌っていたのか、もっと知りたくなりました。歌詞を調べていくうちに、その歌は、昔よく聴いた聖書に基づいていることを知りました。

バイブルスタディーとVOV しばらくして、中学時代からの親友のひとりが、アメリカ留学中に洗礼を受けて帰ってきました。彼女にゴスペルのことを話したら、「それは陽ちゃん、教会に行くといいよ」と言われました。とはいえ、過酷な変則勤務をこなす、新人看護師だったわたしは、日曜日は、仕事か燃え尽きているかのどちらかで、とても毎週教会に行く気になれませんでした。ある日、その親友の紹介で職場の近くの家庭集会に参加しました。そこで出会った女性が、

私がゴスペルに興味があることを聞くと、「半年後に名古屋でゴスペルクワイアを立ち上げる計画があるんだけど、参加しない？」と誘って



れました。その彼女が、個人的にバイブルスタディを不定期に開いてくれながら、ついに1999年9月9日という、苦しい数字が並ぶ日に、名古屋の現Voices Of Vision (VOV) というクワイアが誕生し、ラニー・ラッカーさんの指導のもと、週1回賛美をする機会が与えられました。

イギリス留学とゴスペル 2000年9月、看護師を辞め、1年間イギリスへ語学留学に行くことになるのですが、それまでの1年間、ゴスペルを通じて神様は色々なことを私に語って下さいました。求道中とはいえ、「私のように信仰の弱い人間がゴスペルを歌っていいんだろうか」と悩んだ時期もありました。詩篇1篇をもとにした、「Like a Tree」という曲では、どんな嵐や苦難のなかでも揺れ動きません！という力強い信仰告白のような曲だったんですが、「今の私は木枯らしだけで吹き飛ばされそうな枯れ葉状態だから歌えません！」と落ち込んだり、詩篇150編で「息のあるものは全て主をたたえよう」とあるように、どんな人間でも賛美していいんだ！と再浮上したり、信仰的には紆余曲折をくり返しながら迎えたイギリス留学でした。

ラニーさんから、ゴスペル仲間のジョーダン家を紹介してもらいましたが、学校は、ロンドンから電車で2時間くらいのところにある田舎町。ブラックゴスペルクワイアなどありません。最終的にジョーダン家の長男が指導する、ロンドンの黒人教会にあるユースクワイアに入ることができ、ほぼ毎週、根性で通いました。その後、語学学校に不満があり、ロンドンの語学学校に転校し、日曜日の礼拝も、ユースクワイアの

教会に通えるようになりました。聖書に「何事も思い煩ってはならない。ただ、事あるごとに、感謝を持って祈りと願いとを捧げ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるのが良い。そうすれば、人知では到底はかることができない神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守るであろう」ピリピ人への手紙4章6-7節とありますが、「ゴスペルを歌いたいんです」という私の祈りを聞いた神様は、次々と困難と思える扉を開けていって下さいました。

自分の性質との戦い、降参、そして洗礼 それでも子供の頃に築き上げられた価値観やものの考え方などは、そうそう簡単には無くなってくれません。一つ目はがんばること。私は競争心の高い子供でしたので、受験戦争も苦ではなく、努力をして目標を成し遂げた時の達成感が好きで、何かにつけてはいつも目標を設定して、それに向かってひた走るタイプでした。自分の努力こそが力の源だと思っていたんですね。そして2つ目は、良い行いをしないと救われない、罰せられるという考え方。この2つが、特に求道生活の行く手を阻んでいました。それでも「もうだめだー、教会を(クワイアを)離れたいなあ」と心弱ったとき、神様はいつも絶妙なタイミングで不思議な方法で私にいつも助け舟を出して下さいました。それは、人だったりものだったり状況によって違いましたが、本当に不思議で、「誰にも話したことがない悩みだったのに、なんでご存知なんだろう？」って、どこかから見張られているような気もしました。子供の頃は、簡単に教会や神様からバイバイと離れてしまいましたが、今回はガシッと腕を握られているような気がしました。

そして2001年の春に行われた特別集会で、語られたみことばに心を砕かれました。

「御前に清く、傷のないものとなるようにと、天地のつくられる前から、キリストにあって私達を選び、私達に、イエ

スキリストによって、神の子たる身分を授けるようにと、御旨の良しとするところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである。」(エペソ1章5、6節)

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです、それは、自分自身からでたことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇るのではないためです。」エペソ2章8、9節

それまで私は、たくさんのいい人達、好機に恵まれてラッキーだったなあと思っていましたが、神が私を創造する前から私の両親を選び、クリスチャンファミリーの近所に生まれ、教会に繋がり、さまよい、ゴスペルに出会い、ラニーに出会い、ロンドンでジョーダン家に出会い、いまこの場に座っているのは、全て神様のご計画のうちにあったもので、決して運や努力によるものではなかったことに気づきました。点が線になった瞬間でした。こんなことができるのは、先祖でもよろずの神でも仏陀でもなく、キリストただお一人だと確信し、降参だと思いました。その夜、わたしは救われ、夏にロンドンの同教会で洗礼を受けました。

帰国、そしてアメリカに 2001年秋に日本へ帰国した後も、この私の「ゴスペルを歌いたいんです」という祈りは常に聞かれました。看護師という仕事をしながらでも、2011年に知り合いの居ないNYに引っ越した環境の中でも、神様はいつも賛美の扉をあけて下さいました。今は仕事を始めた関係でグリニッチのワークショップに参加できなくなりましたが、神様が別の道を備えて下さったので、驚きと感謝でいっぱいです。今日の証は、私というほんの一例ですが、日本でゴスペル仲間が次々と洗礼を受けていくのを見たり、武道館で1000人超のゴスペルクワイアがコンサートをしたりと、日本でも神様の多くの素晴らしい御業がなされています。これからも神様に期待し、祈っていきたいと思います。(2015年11月) ■

■ 2016年冬の集会・行事予定 ■

※ 下記以外にも週の間に入門クラス、聖書の学び会等が行われています。お問い合わせください。

【定例集會】

- ★ 日曜礼拝 / 10:30~12:00
礼拝前 グループ会 / 9:45-10:20
- ★ 祈り会 / 水曜日 10:00~12:00

【各種集會】

- ★ **スタンフォード** 聖書を読む会
隔週水曜午後 1:15 場所: 井上宅
- ★ **ハートフォード** 聖書を読む会
隔週金曜、毎週木曜午前 要問合せ

★ クイーンズ家庭集會

月1土曜午後 1~3時 場所: 要問合せ

★ サラトガ家庭集會

月1回 10:30 場所: キャスパ一宅要問合せ

★★★ 井上薫牧師講演会 (無料) チラシ → <http://jgclmi.com/2016-11-InoueEvMtg.pdf>

11月27日(日) 10:00 AM (ウェルカム礼拝の中のメッセージになります)

かつてヤクザだった牧師が赤裸々に語るどん底からの脱出。奥様の比呂子さんとの出会い、一冊の聖書、そして希望と喜び。ぜひこの感動的な話を聞きにいらしてください!

★★★ クリスマスのタベ 「O HOLY NIGHT」 チラシ → <http://jgclmi.com/2016XmasFlier.jpg>

12月04日(日) 5:30 PM featuring the **Japanese Gospel Choir of Greenwich & Kid's Choir**

ウェストチェスター・フェアフィールド地域の日本人女性たちと子供たちによるゴスペル演奏とキャンドルサービス、皆で歌うキャロルをもって、共にクリスマスの希望と喜びの福音/ゴスペルを綴って参ります。

☆クリスマス礼拝 12月25日(日) 10:30 AM ★2017年元旦礼拝 2017/1/01(日) 10:30 AM

★1月ウェルカム礼拝&お餅を食べる会 2017/1/29(日) 10:30 AM

★★★以上、詳しくは教会のウェブページにチラシ、案内がありますので、そちらをご参照ください。

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: church@jgclmi.com

